

九大・安達 千波矢氏 【有機EL】

検証

最先端研究開発
支援プログラム

FIRST

九州大学の安達千波矢教授は、最先端研究開発支援プログラム(FIRST)で「スーパー有機ELデバイスとその革新材料への挑戦」をテーマに研究を進める。2012年には有機エレクトロ・ルミネッセンス(EL)の次世代材料を開発。一方で13年度末のプログラム終了を視野に、事業化に向けた準備を始めた。

研究は九大に設立した最先端有機光エレクトロニクス研究センター(O

PERA)に集結した幅広い連携により行われている。14社、14研究機関が参加し、約200人がかかわる。企業は各社1~3人の研究者をセンターに派遣する。

企業のほとんどは、FIRST以前から安達教授と共同研究を行っていた。た

だ、それまでは手続きをはじめ企業との一対一の関係。FIRSTによって

12年には研究と並行して取り組ん

できた知的財産権の管理は専門グループが戦略的に

い、約100件の特許を取

得した。ただ、安達教授が

FIRST後で懸念する

のが知財分野。特許を維持

する。また熊本県では有機エレクトロニクス実用化開

発センター」を完成。関連

の研究施設近くに「有機光エレクトロニクス実用化開

発センター」を完成。関連